

NIKKEI Asia



味を帯びてきた。投資急減で不足し、価格が急騰する可能性が現実

バンダインサイト創業者 バンダナ・ハリ氏 寄稿

エネルギー需要や環境保護の必要性に対する長期予想が急速に変化し、国際石油メジャーが化石燃料からの脱却を進めている。

だが、新型コロナウイルスの感染拡大や、石油価格の下落が長引くとの見方もあり、アジアの新

石油メジャーが脱石油

アジア エネルギー不足も

英BIPは二酸化炭素の排出量を減らすため、2030年までに石油とガスの産出量を40%削減すると発表した。英蘭ロイヤル・タッチ・シェルや仏トタルなどは、石油とガスから再生可能エネルギーやバイオ燃料に比重を移す方針だ。エクソン

えても石油・ガスの産出量の減少を補えない事になり得る。しかも石油メジャーなどが相次ぎ撤退しているのは、小規模でコスト効率が悪いアジア太平洋の石油・ガス田で、この地域にとってはまさにダブルパンチだ。現在、石油需要の約半分は民間企業が供給している。この比率が下がれば、地政学的に不安定な中東の湾岸諸国の国営石油会社による供給が増えることになる。

脱炭素の必要性については広く合意されている。ところが目標達成に向けた明確な行程表はない。石油需要が頭打ちになる正確な時期についても見方が分かれている。アジア太平洋は世界の石油消費の約37%を占め、需要が最も伸びている。今後何年かは、代替エネルギーの供給量が

コロナ禍が収まればアジアの需要の伸びは再び世界で最も大きくなるだろう。アジア各国が最も望まないのは石油価格の急騰と、代替エネの供給が増える日を予測もつかないまま待つことだ。

エネルギーの供給量が

英文は「Nikkei Asia」のサイト (<https://asia.nikkei.com/>) で掲載しています。

ナフサ生産量 2.8万キロトル増加

石連週報

石油連盟がまとめた石油製品統計速報（9月13～19日）によると、ナフサの生産量は21万9188キロリットルで、前週の19万1164キロリットルから2万8024キロリットル増加した。在庫量は132万2187キロリットルで、前週の141万2274キロリットルから9万87キロリットル減少した。

溶剤を30円幅

ダウ・ケミカル日本

ダウ・ケミカル日本は、10月21日出荷分からプロピレン系グリコールエーテル溶剤を値上げする。改定幅は1キロリットルあたり30円。原料の高騰によって採算が悪化するなか、安定した操業と供給を維持するため価格改定を決めた。

対象製品は塗料や電子機器向け洗浄剤のほか、家庭用洗浄剤やシンナーなど幅広い用途で利用されている。

TDI 40円超

三井化学SKC
ホリウレタン

三井化学SKCのホリウレタンは、10月15日納入分からトリレンジイソシアネート（TDI）類を値上げする。改定幅は1キロリットルあたり40円以上。一昨年末から市況が低下するなか、コストダウンや台理化の取り組みが、自衛努力の限界を超えている。一方、海外市況は今年8月初旬から急騰。1キロリットルあたり2500円を超えるレベルに達し、内外価格差が拡大している。海外市況の高騰とタローハルな供給サイド感は当面続くこととみられ、国内での安定供給を確保するためには、価格を見直しざるを得ないと判断した。

諸原料の高騰、原料調達先の製造設備停止にともなう代替品調達体間の懸念、自然災害発生時の安定供給体制構築などによるコスト増も背景にある。

サウジ原油調整金 2ヵ月連続割り引き 11月積み、需要戻らず

サウジアラビアの国営石油サウジアラムコは日本の石油精製会社に対し、アジア向け原油に適用する11月積みの調整金について、主要4油種を

2ヵ月連続で指標価格から割り引くと通知した。航空機燃料など石油製品の需要が戻らず、製油所の原油調達が低迷していることを映した。

2020年11月積みの
サウジ産原油の調整金
〔1バレルあたりドル、+は割増金、-は割引金、カッコ内は前月比増減額〕

スーパーライト	+0.85 (+0.30)
エキストラライト	-0.6 (+0.20)
ライト	-0.4 (+0.10)
ミディアム	-0.3 (横ばい)
ヘビー	-0.3 (横ばい)

代表油種「アラビアンライト」は、指標価格に対して1バレルあたり0・40ドルの割り引きとし、10月積みから0・1ドル上がった。軽質の「エキストラライト」は0・60ドル割り引き同0・2ドルの上げ。原油安による製油所の利幅などを考慮して割引額を小幅に圧縮した。

日本の石油会社がサウジから長期契約で調達する原油の価格はドバイ原油とオマーン原油の月間平均を指標とし、油種別に調整金を加減して毎月改定する。

古紙輸出価格が上昇

直近安値から5割高 アジアで需要増

段ボールなどの原料になる古紙の輸出価格が上昇している。貿易統計によると、8月の平均輸出価格は1キログラムあたり14・6円と、直近安値の昨年12月から5割上昇した。コロナ禍で古紙の回収が滞る台湾向けなどが伸びている。2021年から古紙輸入を全面禁止する中国が最後の買い付けに動いていることも押し上げた。ただ足元では天井感も出ている。

中国輸入禁止控え買い付け

19年12月に同9・9円まで下がった古紙の輸出価格は、アジアでの需要拡大を受けて20年1月から上昇。1～8月の古紙の輸出量も224万トンと前年同期比10%増えた。

輸出価格が上昇しているのは、コロナ禍でアジア諸国・地域が古紙不足となっているため。台湾やタイ、ベトナムで古紙の発生が減ったうえ回収紙の輸入規制を年々強めていたが、21年1月から

は不足分を穴埋めするため日本からの古紙の調達に動いている。中国の買いも目立つ。中国は環境保護のため古紙の輸入規制を年々強めていたが、21年1月から

輸入できる年末までの期間が短くなるにつれて、地理的に近く短期間で調達できる日本からの古紙輸入を強めるようになった。

日本の古紙問屋は古紙のほとんどを国内の製紙会社に出荷しており、国内で余剰となった在庫を輸出に振り回している。今年にはコロナ禍で紙の生産が落ち込んだことで国内の古紙需要が減少、荷余り感が強まっている。

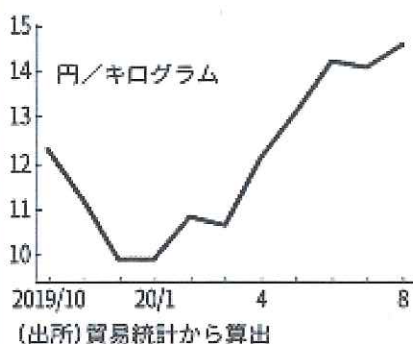
は全面禁止する。中国の製紙会社は主に欧米から古紙を輸入しているが、異物混入で陸揚げできないトラブルなども発生。海運会社が中国向けの古紙輸送の注文を受けたが、欧米からの調達が難しくなっている。

輸出価格の上昇は古紙問屋の収益改善にもつながった。「春先までは赤字輸出だったが、足元では採算が合うようになってきた」（古紙問屋）

ただ、輸出価格には天井感も出ている。中国の買い付けは11月中旬には終わるとみられており、中国の買いがなくなる。価格の上昇力は弱まる。古紙問屋によると、すでに10月積みみの段ボール古紙は下落に転じた。

日本の古紙問屋はタイやベトナムなど中国以外への販路拡大を急ぐが、欧米も同様に中国以外に販路を求めるとみられ、今後、アジア市場で競争が激化しそうだ。このため「今後、輸出価格の大幅下落は避けられない」と古紙問屋の役員はみている。

アジア需要で古紙は高い



古紙の輸出価格には天井感が出ている（関東の古紙問屋）

関東の古紙問屋でつく

る関東製紙原料直納商工

2020 年 10 月 7 日 担当者: 椎野

NEDOが採択

ユーグレナのバイオエッジ燃料事業などユーグレナのバイオエッジ燃料事業と燃料用微細藻類に関する研究開発が、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業に採択された。公募は「バイオエッジ燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデル

の構築、微細藻類基盤技術開発」。採択により、バイオ燃料製造実証プラントの運転や燃料用微細藻類の培養にかかわる実証設備への投資・運転といった費用に対し、2020～24年度まで助成金による支援を受ける予定。同社では25年にバイオ燃料製造商業プラントの稼働開始を目指しており、実現に向けた取り組みを加速していく。